

令和6年度「学校自己評価」傾向と分析

令和7年3月
柏市立大津ヶ丘中学校

1 はじめに

今年度は令和6年12月に、生徒、保護者、教職員による「令和6年度学校評価アンケート」を実施いたしました。

このアンケートは、今年度の教育活動について、本校のグランドデザインの達成状況や達成に向けた取組の適切さ等を検証するとともに、次年度への改善を図るために、学校評価として実施したものです。

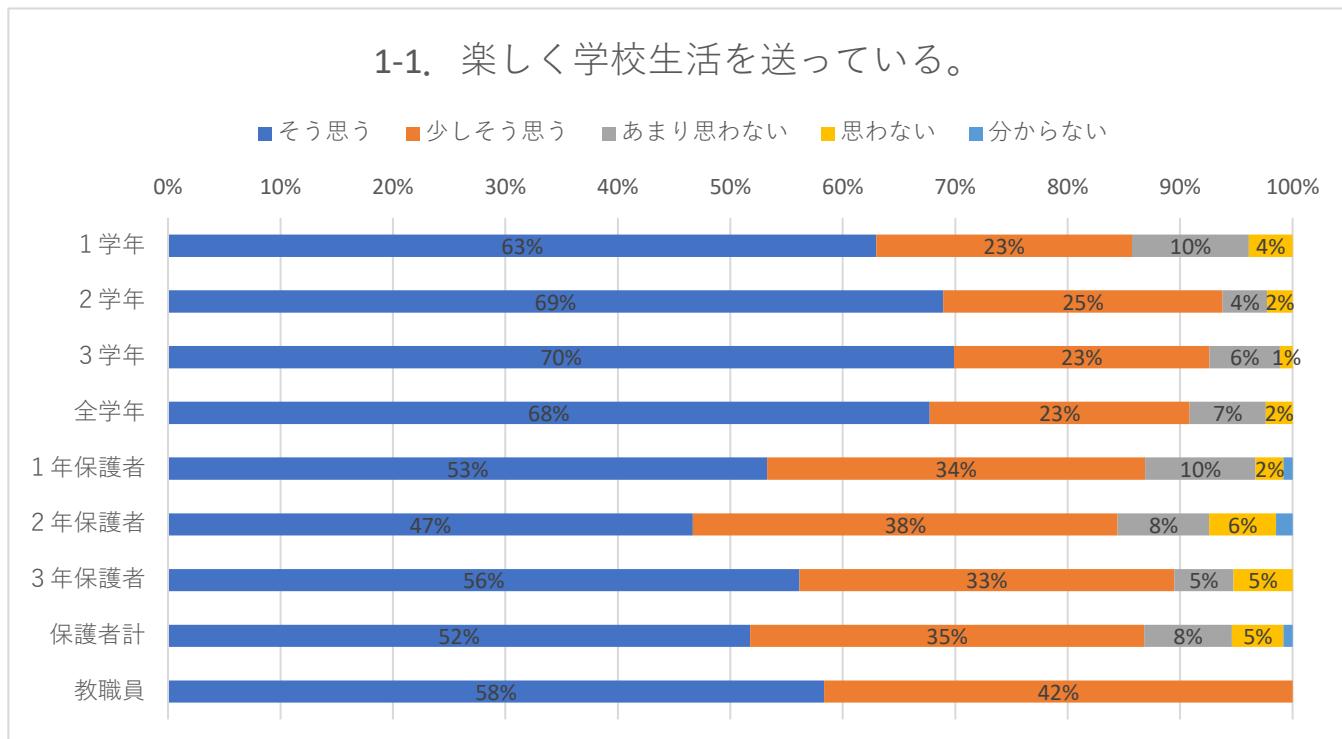
2 学校評価アンケート結果及び自己評価

まず、令和6年度の学校評価アンケートにおいて、生徒アンケート結果は、多くの分野で「そう思う・少し思う」が高い割合でキープしていますが、「あまり思わない・思わない」の割合が、昨年度に比べて増加した分野もありました。どの学年においても、本校に通う多くの生徒が、楽しく、目標に向かい、目的を持って充実した学校生活が送れるようにしていきたいと考えております。

また、保護者アンケート結果は、「わからない」という回答が一定数あるため、各種たより等により、学校生活（授業の様子、学校の対応等）について積極的に広報活動を充実させたいと考えております。

（1）目指す学校像について

■設問1－1：「楽しく学校に通っている。」



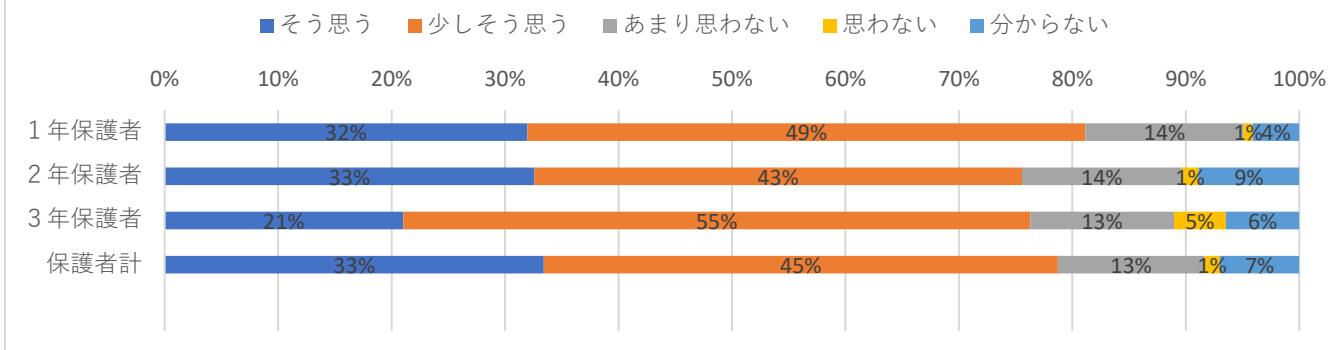
設問1－1「生徒は楽しく学校に通っている。」については、生徒において、「そう思う」「少しそう思う」を合算した肯定的評価が91%を超えたが、昨年度より4%減少しました。保護者において、「そう思う」「少しそう思う」を合算した肯定的評価が87%を超え、昨年度

より3%増加しました。

生徒は、学校生活の中で、成功や失敗など多くの経験をしながら、9割以上の生徒が楽しい学校生活を送っていると考えられます。

一方、生徒の約9%は「あまり思わない」「思わない」を合算した否定的評価となっています。学校に登校することができない生徒、教室に入ることができない生徒、学校が楽しくないという生徒が依然としていることを真摯に受け止め、学校はすべての生徒において、「安全で楽しく、自己実現ができる場」であることを目指し、個に応じた教育活動の改善等を図り続けます。

1-2. 大津ヶ丘中学校は保護者にとって生徒を通わせたい学校となっている。

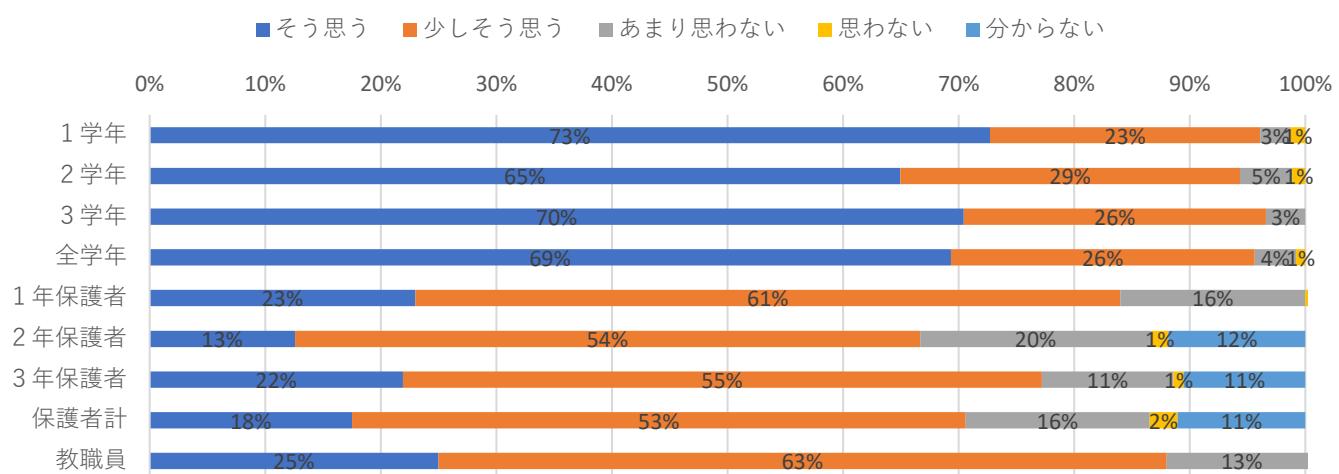


設問1-2「大津ヶ丘中学校は保護者にとって生徒を通わせたい学校となっている。」については、保護者の肯定的意見が78%で、昨年度比で約1%減少しました。約8割近くの保護者の方にとって「通わせたい学校」という結果になっていますが、本校の指導に対する保護者の疑問や不満により、具体的な否定的意見もあることから、丁寧に学校の方針を説明し、改善すべき点については解決策を一つ一つ検討していきます。

(2) 豊かな人間性（思いやりと感動、命の大切さ）について

■設問2 「『豊かな人間性』について、教育活動を通じて思いやりと感動、命を大切にする心が育っている。」

2. 思いやりや感動する気持ち、命を大切にして生活している。 (「豊かな人間性」)

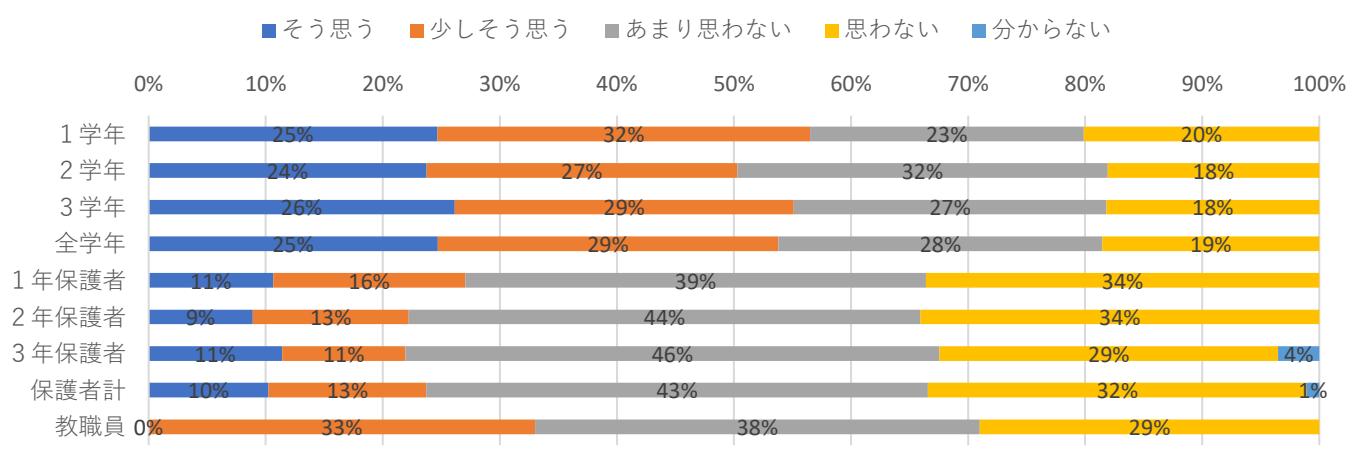


本校の学校目標である「未来を切り拓く人間力の育成」を目指し、学校生活の中でも道徳教育や体験活動を中心に、豊かな心を育んでいます。結果を見ると、生徒の約95%以上が「思いやりと感動、命を大切にする心」が身についていると回答しています。一方、保護者の方の回答は約71%にとどまっています。生徒・保護者ともに昨年度変化がありませんでした。現在の学校目標に変更してから4年目を迎え、道徳教育、体験活動の成果がでていたところですが、今回の結果を受け、改善すべき点については解決策を検討していきます。

(3) 読書習慣について

■設問3 「読書習慣が身についている。」

3. 読書習慣が身についている。



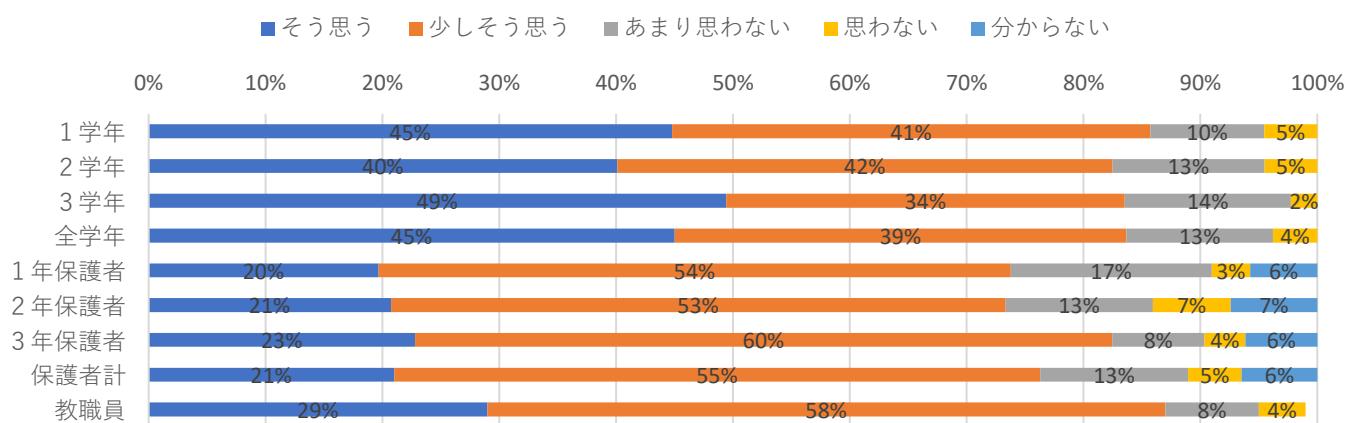
今年度よりアンケートを取った項目になりますが、生徒は約54%、保護者は23%と低い値になっています。本校では、「朝の登校後から朝の会開始まで」と「給食の配膳中」に読書を推奨していますが、この取り組みが浸透し、読書習慣につながっていないことがわかりました。保護者に否定的な意見が多いのは、スマートフォン等の利用により、家庭で読書をしない生徒がとても多いことが推察されます。学校での取り組みが浸透し、習慣になるように支援していきます。

(4) (5) 健康・体力（コーディネーション「心と体を整える」）について

■設問4 「心と体のバランスが取れた生活ができる。」

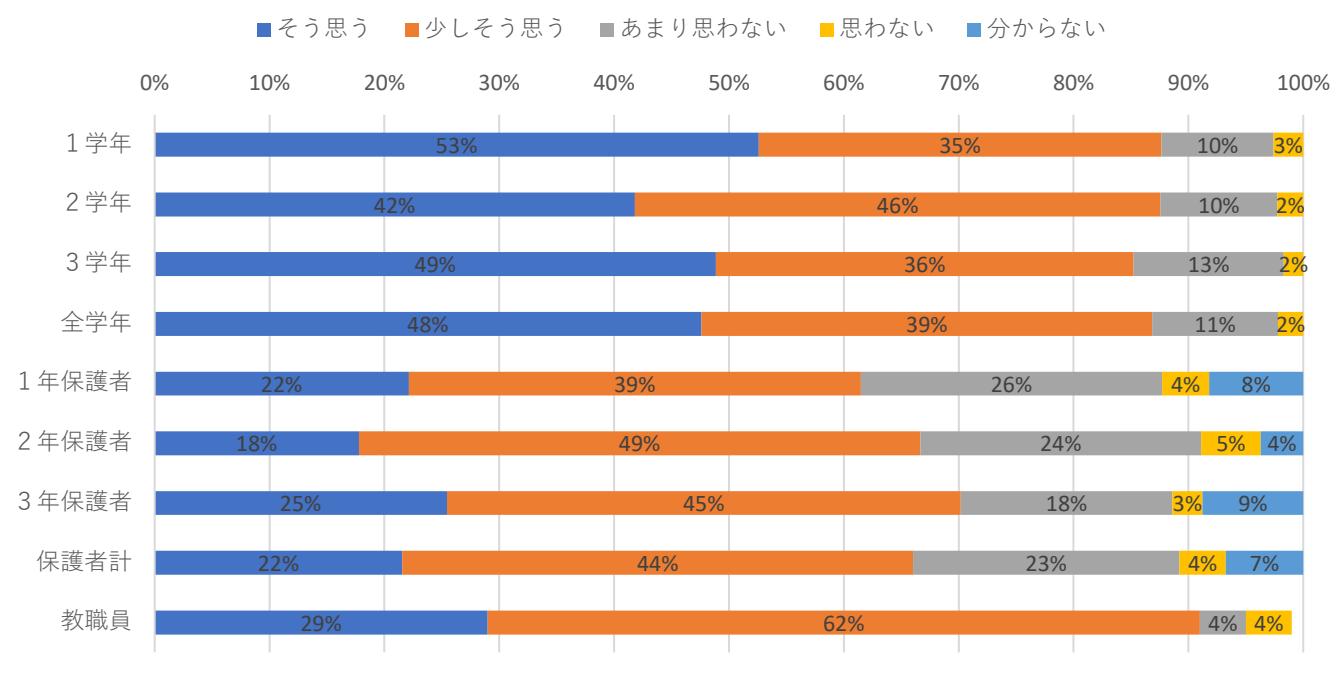
4. 心と体のバランスが取れた生活ができる。

（「健康・体力」）



■設問5 「食生活に対する正しい知識と望ましい食習慣を身につけた。」

5. 食生活に対する正しい知識と望ましい食習慣を身につけた。

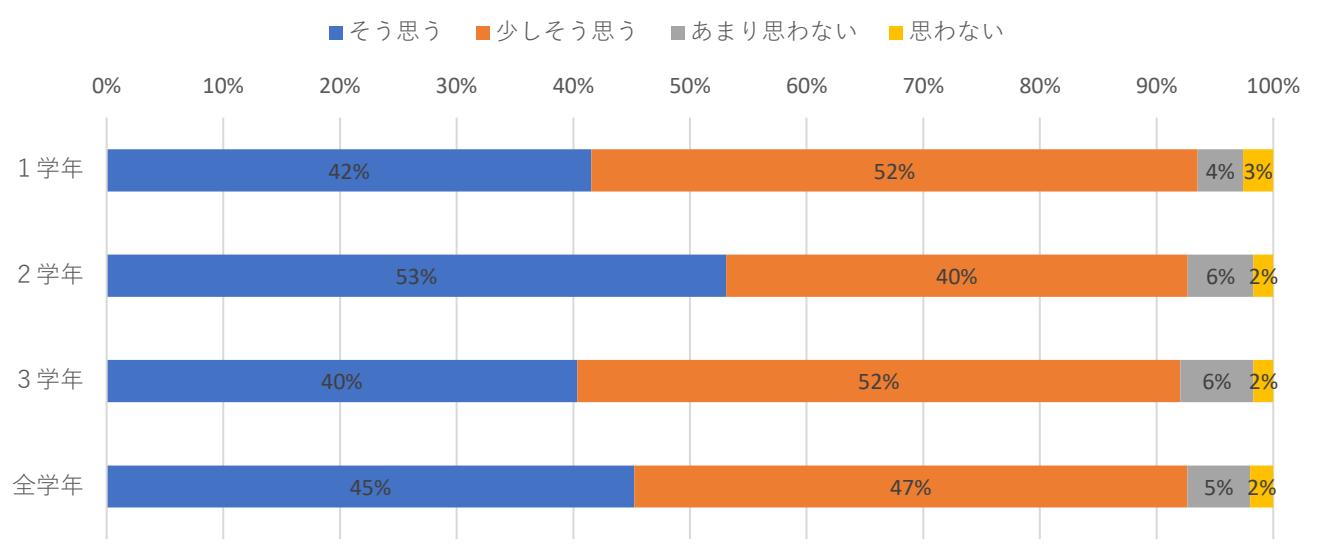


生徒87%以上が「正しい知識と望ましい食習慣を身につけようとしている」と回答しています。しかし、給食様子を見ていると、昨年度同様にアレルギー等ではなく、好き嫌いから一切手を付けずに、残す生徒が見られます。残渣も多い現状があります。学校給食は、今の生徒に必要な栄養素やエネルギー量を計算して作られています。また、保健だよりや家庭科や保健体育などの授業の中でも食生活について学習します。好き嫌いをせずに、バランスよく食べるように声掛けをしていきます。

(6) 資質・能力の育成【新時代に向けて4つのCの育成】

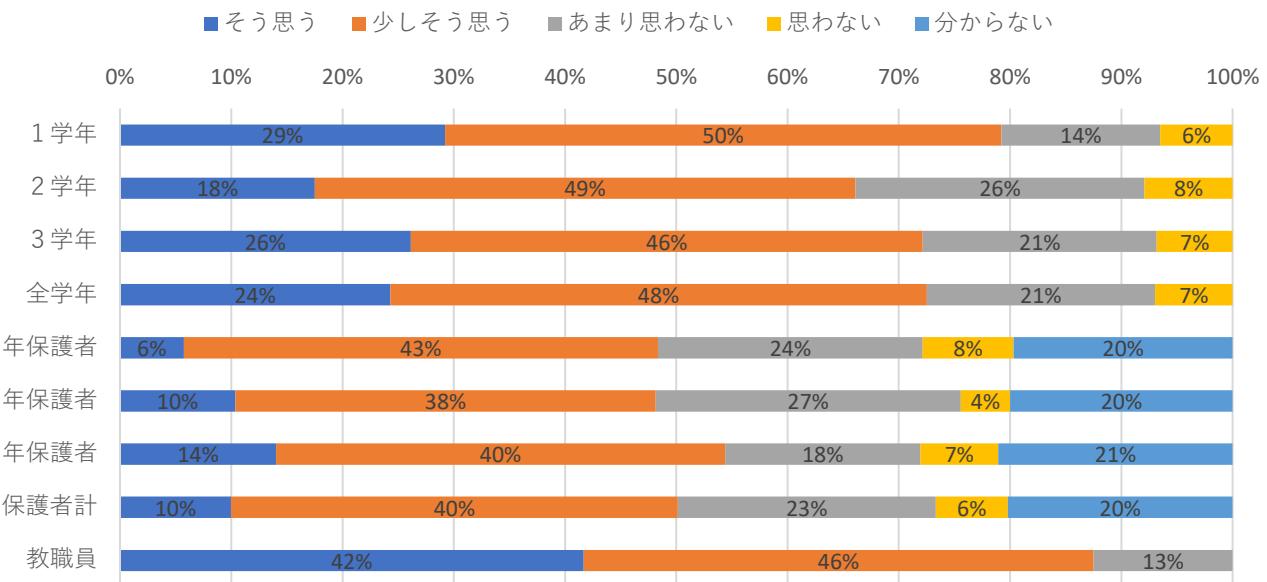
■設問6－1 「教員の授業はわかりやすい。」

6-1. 先生はわかりやすい授業をしている。



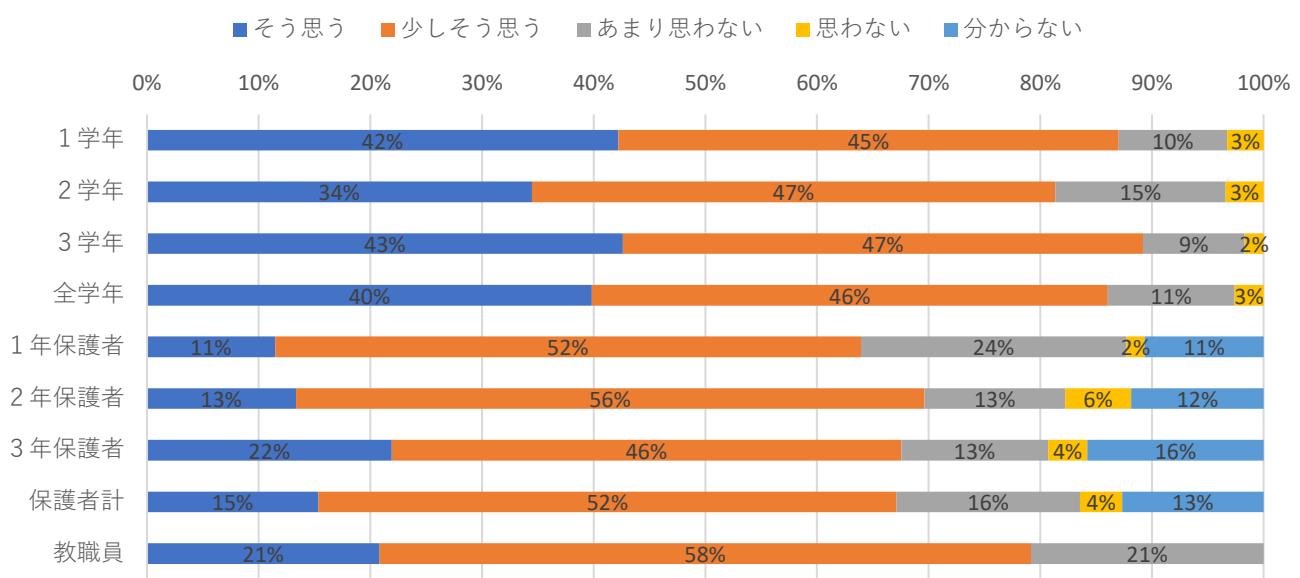
■設問6－2 「『資質・能力の育成』について、学校教育目標の『未来を切り拓く人間力の育成』の新時代に向けての4つのCの育成が図られている。」

6-2. 学校教育目標の「未来を切り拓く人間力の育成」の
新時代に向けての4つのCを意識して学校生活を送っている。
(「資質・能力の育成」)



■設問7 「生徒は、学習や体験で身につけた『思考』『表現』『協働』『判断』を様々な場面で活かさせている。」

7. 学習や体験で身につけた「思考」「表現」「協働」「判断」
を様々な場面で活かさせている。



学校目標については、現在の本校の状況と新時代に求められる力を鑑み、以下の4つの力を育成することとし、授業、学校行事、部活動等、すべての学校生活において、この4Cの育成を図ってきました。

- Creativity(クリエイティビティ) 「自由で柔軟な発想を大切にしよう」
- Communication(コミュニケーション) 「お互いの考えをしっかり伝えあおう」
- Collaboration(コラボレーション) 「みんなで力を合わせて問題を解決しよう」
- Critical(クリティカル) thinking(シンキング) 「それで本当に良いのか慎重に考えよう」

設問6-1 「教員の授業はわかりやすい。」は、生徒の約92%が肯定的意見となっています。昨年度より1%増加しましたが、「わからない」・「わかりにくい」・「難しすぎる」などといった否定的な意見も見られます。授業は、学校の教育活動の基盤であり、生徒、教職員、保護者の信頼関係の基礎となると考えています。今後も、生徒の実態に合わせ、学習指導要領に基づいたわかりやすい授業に向けて改善を続けていきます。

設問6-2 「『資質・能力の育成』について、学校教育目標の『未来を切り拓く人間力の育成』の新時代に向けての4つのCの育成が図られている。」については、結果と見ると、教員は約88%が4つのCの育成について効果を感じていますが、生徒は約72%（昨年度より2%増）、保護者は約50%（昨年度より5%減）しか実感できていない結果となりました。

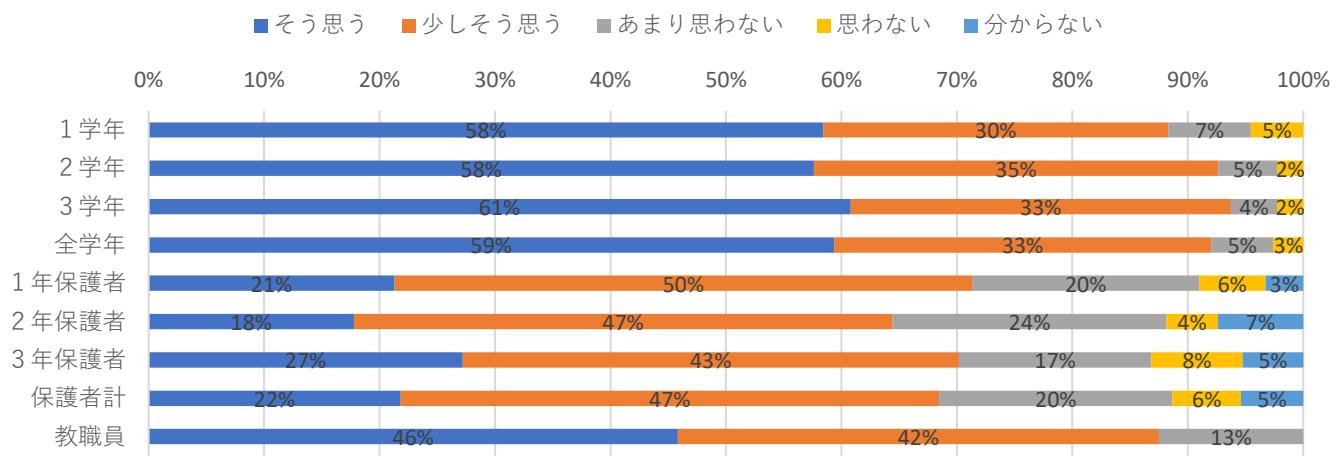
今後、この「目に見えない学力」が身につくように、また生徒が実感し、普段の生活でその力が発揮できるよう取組を改善していきます。

また、設問7「生徒は、学習や体験で身につけた『思考』『表現』『協働』『判断』を様々な場面で活かせている。」については、生徒の「思考」「判断」「協働」「判断」を活かせていないという回答が教員で21%でした。これについては、全学年を通して、校外学習、林間学校、修学旅行等の旅行行事では、各係が中心となり、自ら目標やルールを決め、自分たちで声を掛け合いながら実施する場面を増やすなど、学校生活でこれらの力を活かす場面の設定を増加し、実感できるようにしていきます。

（8）何が身についたか

■設問8 「通知表や成績表、プリントやレポート、ノート等を通じて生徒の学習や体験の達成状況がわかる。」

8. 通知表や成績表、プリントやレポート、ノート等を通じて 自分の学習や体験の達成状況がわかる。



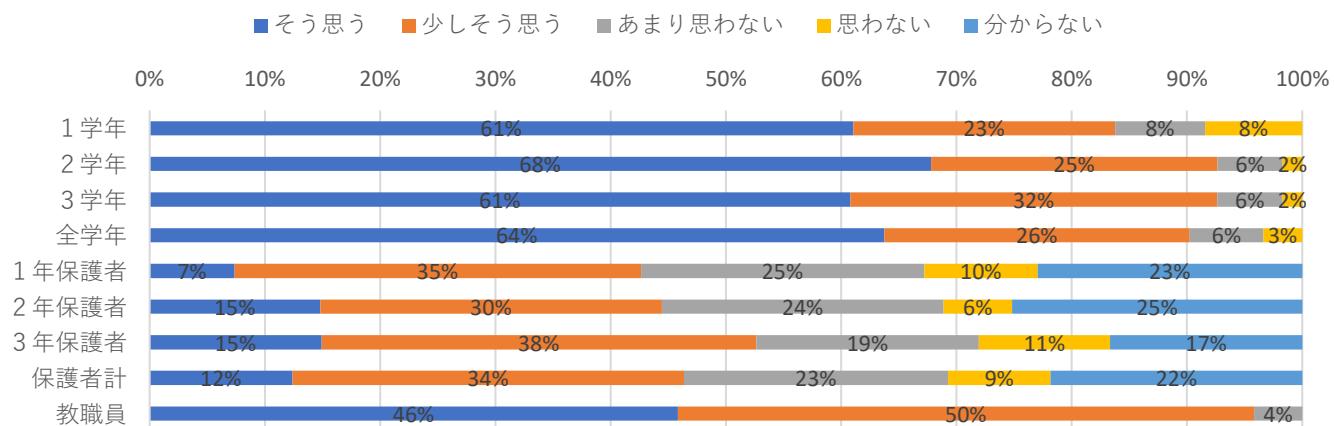
一昨年度から10～11月にかけて、全保護者・全生徒を対象とした三者面談を実施しております。短文による所見ではなく、実際に三者で学校生活を振り返り、課題の確認、進路

相談等を行い、その後の学校生活に活かしています。保護者は、昨年度より「思わない」「わからない」の回答が昨年度より多くみられています。教職員の取り組みから改善し、保護者へ伝わるように改善していきます。

(9) 生徒の発達をどのように支援するか。【配慮を必要とする生徒への指導】

■設問9 「学習や生活で困った時に相談（オンライン等も含めて）したり、助けてくれる人がいる。」

9. 学習や生活で困った時に相談（オンライン等も含めて）したり、助けてくれる人がいる。



個に応じたきめ細やかな指導とチームによる対応・支援については、生徒は約90%がそのような対応が行われていると回答したのに対し、保護者は約46%にとどまっています。また、否定的意見が約32%になっています。また、ご意見も数件伺っております。「わからない」という回答も22%もありますので、どのような支援体制があるのかなど、困ったときの対応などを周知できるように検討してまいります。

不登校支援については、学習の機会を確保しながら、学校への登校や、教室への復帰を目指す生徒を個別に支援するセカンドルームに常駐の職員を配置し、登校から下校まで一貫した指導を行っています。

一方、オンラインによる授業配信については、オンラインの配信希望がある生徒がいる学級では実施しております。ただ、実技教科では教科の特性やインターネット環境により、オンライン配信が難しい現状があります。

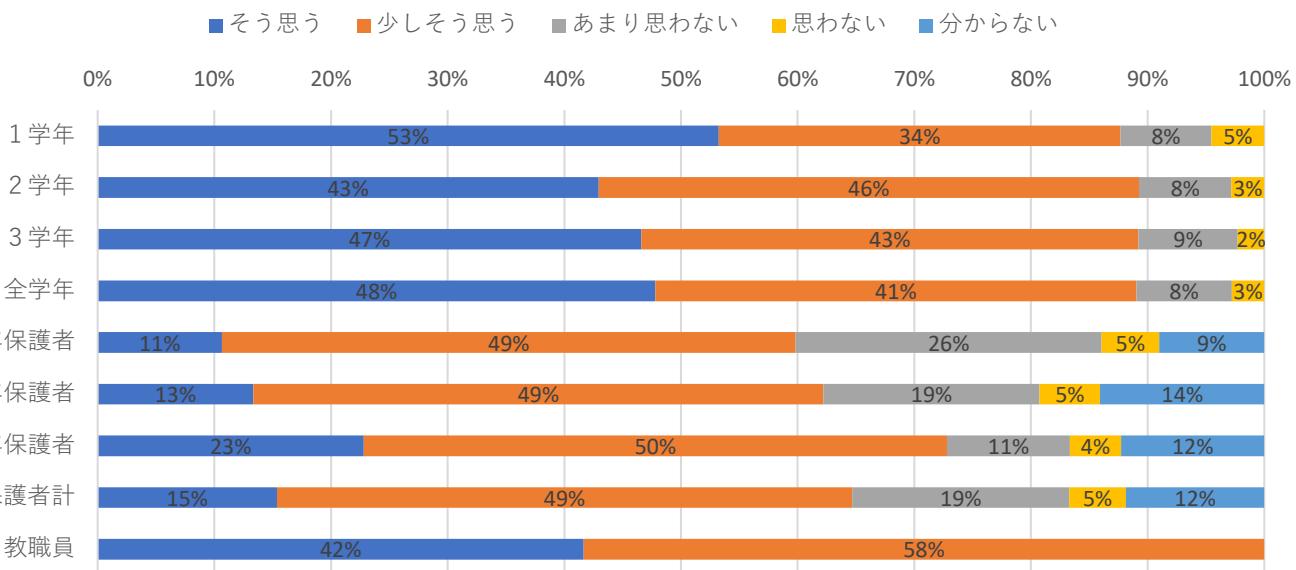
また、特別な支援を要する生徒や、成績不振の生徒に対する個に応じた指導については、保護者の方から複数の改善に関する要望がありました。今年度は3学年で、部活動引退後に放課後の学習会を実施したり、自習室を設けたりしています。実際に基礎学力が十分に身についていない生徒がいることから、有効な取組は継続すると共に、次年度に向け、学力向上に向けた新たな対策を検討してまいります。

(10) 何を学ぶのか。【教育課程の編成】

■設問10 「生徒は学習や体験を通じて言語能力、情報活用能力、問題発見・解決力が身についている。」

10. 学習や体験を通じて言語能力、情報活用能力

問題発見・解決能力が身についてきている。

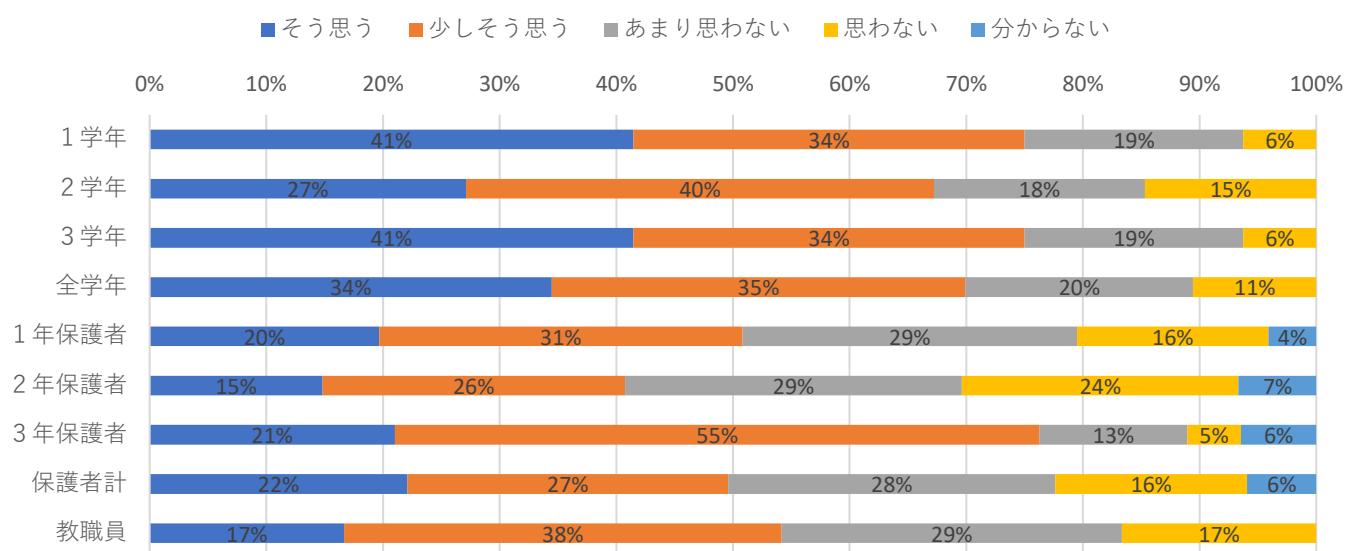


「生徒は学習や体験を通じて言語能力、情報活用能力、問題発見・解決力を身についている。」については、生徒約89%以上が身についたと回答していますが、保護者は約64%にとどまっています。校内での学習については、改善が見られるものの、生徒が普段の生活でその力を発揮できていない、また、生徒の活動した成果が家庭に伝わっていないことが考えられます。

(11)～(13) 単元テストについて。【教育課程の編成】

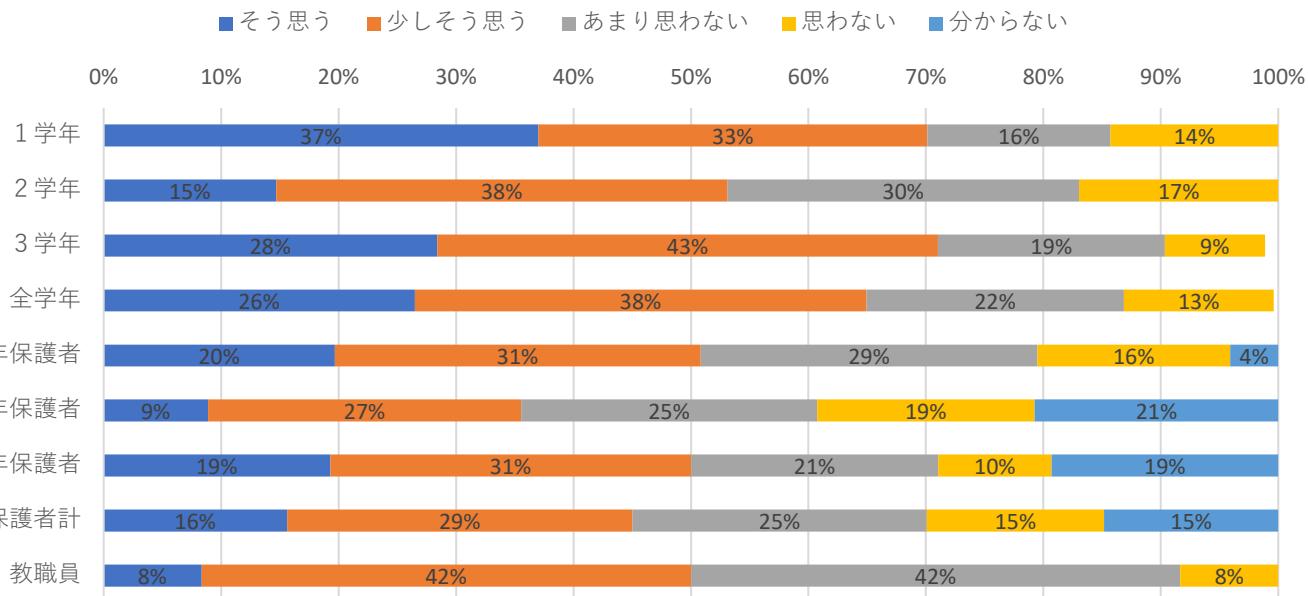
■設問11 「単元テストがあることにより、普段の学習習慣が身についてきている。」

11. 単元テストがあることにより、普段の学習習慣が身についてきている。



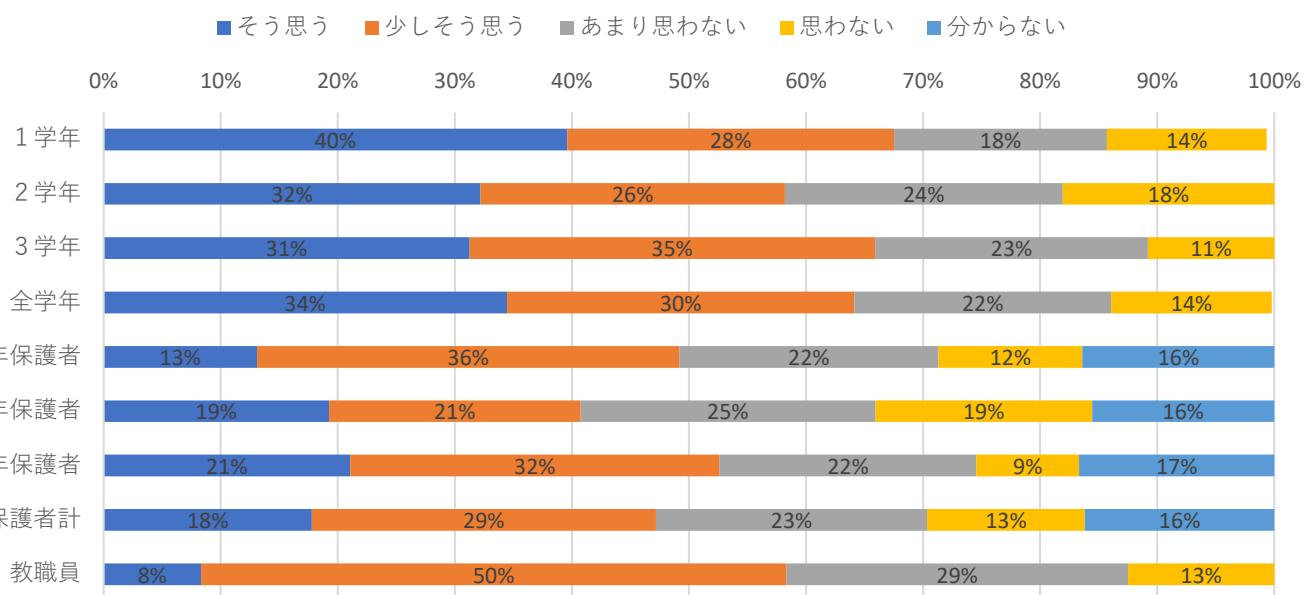
■設問12 「定期テストより、単元テストのほうが学習内容の理解度が高まっている。」

12. 定期テストより、単元テストのほうが学習内容の理解度が高まっている。



■設問13 「定期テストより、単元テストのほうが学習計画を立てやすい。」

13. 定期テストより、単元テストのほうが学習計画を立てやすい。



今年度より、単元テストを取り入れ、初めてのデータになります。

設問11 「単元テストがあることにより、普段の学習習慣が身についてきている。」について、生徒全体では、約69%が肯定的な意見となっています。3年生に関しては、約75%が肯定的な意見でした。3年生の保護者の肯定的な意見は約76%ですが、他学年は低く家庭で学習している姿が少ないことが推察されます。

設問12 「定期テストより、単元テストのほうが学習内容の理解度が高まっている」について、生徒全体では、約64%が肯定的な意見となっています。3年生に関しては、約71%が肯定的な意見でした。保護者の肯定的な意見は約45%にとどまり、「わからない」という回答も多くありました。実際に、3年生の実力テストの結果を見てみると、例年よりかなりよい結果が出ています。一概に単元テストの結果とは言えないですが、結果が出ている要素の一つにはなるものと考えられます。

設問13 「定期テストより、単元テストのほうが学習計画を立てやすい。」については、今年度は定期テストと単元テストが両方実施したため、比較はしやすかったのかと思います。生徒は64%が肯定的な意見であったものの、否定的な意見も多かったため、学習計画の立て方や計画を立てる時間を確保するために、学校では年度途中から週1回は帰りの会を10分延長し、学習計画を立てる時間を確保するようにしました。この取り組みが定着し、各々が自分なりの学習計画を立て、先が見通せるように支援していきたいと考えています。

単元テストのに関するアンケート結果や、実際に生徒や保護者、教職員の声を聞くと、当然ですが、肯定的・否定的な意見の両方が出てきます。改善が必要なところは改善し、説明が必要なところを理解が深まるように対策していく必要があると考えています。

単元テスト（短い範囲）を実施することで、①「見通す」：まずは1週間後までの計画を立てる。そこから先の計画へつなげ、先を見通す力を身につける。②「実行する」：計画に基づき、学習を計画的行う（学習習慣）③「振り返る」：生徒自身が躊躇している分野をいち早く分析し、次への計画にいかす。といった、AARサイクルが身につくきっかけにしたいと考えています。

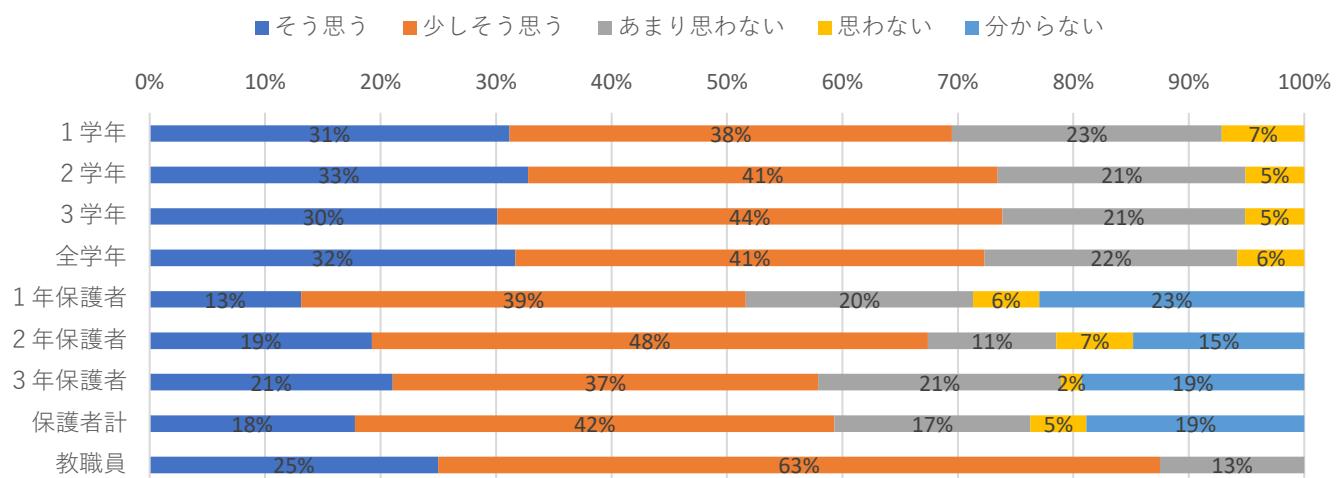
「できない・わからない」⇒「できた・わかった」・「わかる」⇒「発展問題や深い学び」へつながるように支援していきたいと考えています。

どの設問でも、保護者の意見では「わからない」が多く、学校からの広報の仕方が弱かったと痛感しました。教職員の理解も深め、学校から発信を明確にしていきたいと考えています。

（14）どのように学ぶのか。【教育課程の実施】

■設問14 「自ら授業や体験活動の中で自分の考えを発表したり、表現することができる。」

14. 自ら授業や体験活動の中で自分の考えを発表したり、表現することができる。

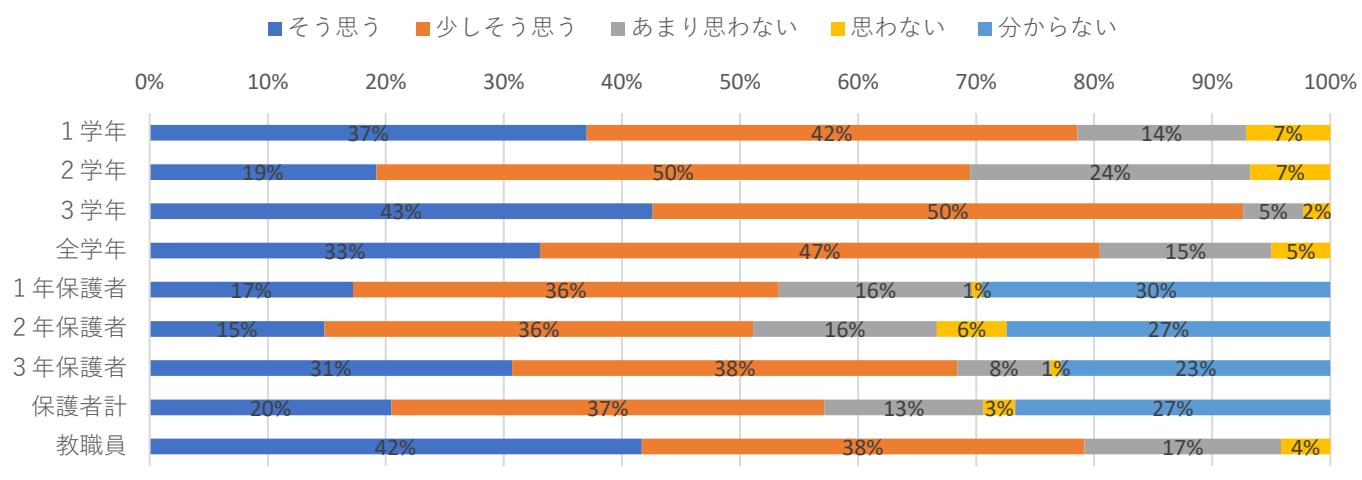


教員は88%以上が授業や体験活動で発表や表現する場を設定していると考えているのに対し、生徒は約73%、保護者は60%にとどまっています。教職員との開きがあることが課題となります。今年度も、学活や総合的な学習の時間においても表現活動を多く取り入れ、1学年では職業調べの発表、2学年では林間学校、職場体験の活動報告、3学年では修学旅行の事後学習でホームページの作成などに取り組みました。しかし、保護者が発表を参観する機会や生徒から保護者へ伝わる方法など、さらなる改善が必要と考えられます。さらに各教科の授業でも、生徒が自分の考えを表現し、伝える課題や場面づくりに力を入れて取り組む必要があると考えます。

(15) (16) (17) 実施するためには何が必要か。【指導体制の充実、家庭・地域との連携・協働】

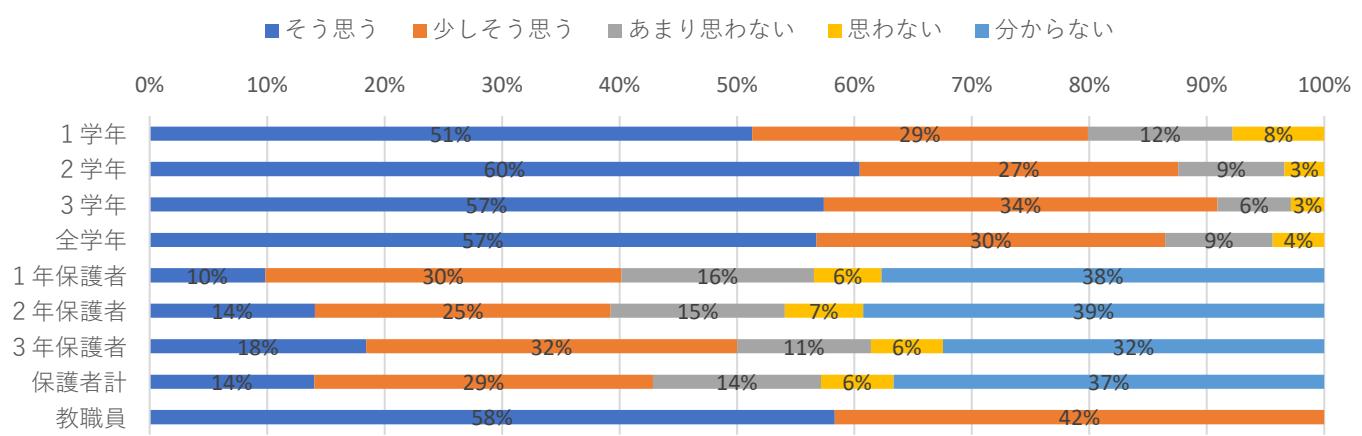
■設問15 「授業は、生徒が個人や集団で主体的に活動する場面やタブレットの活用等が取り入れられている。」

15. 授業は、生徒が個人や集団で主体的に活動する場面やタブレットの活用等を取り入れられている。



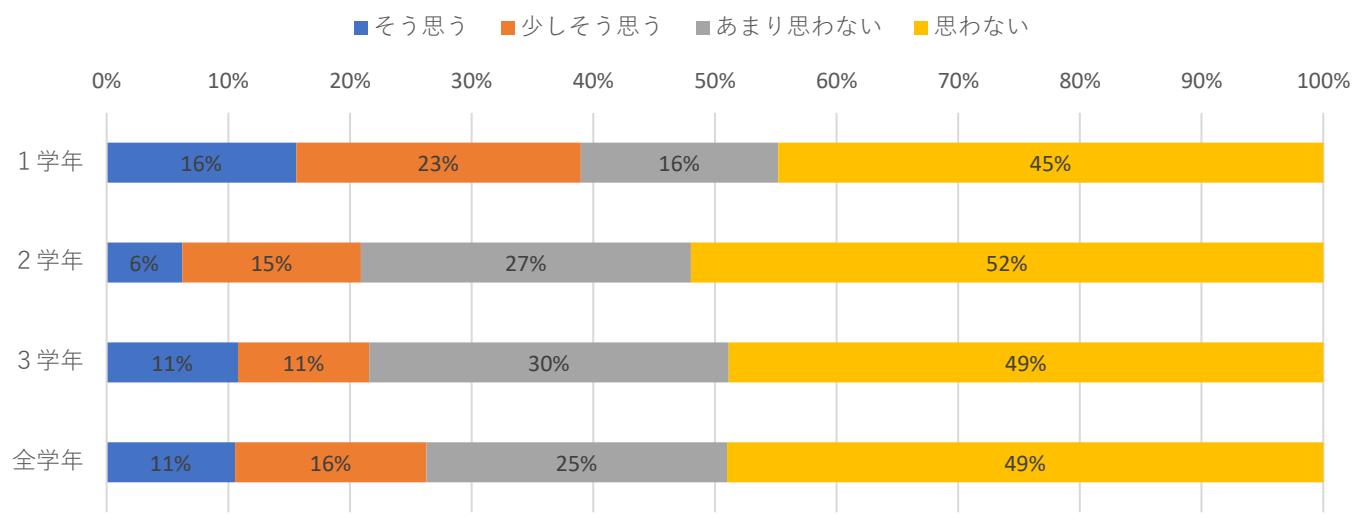
■設問16 生徒：「いじめを見たりされたりした場合、先生や家の人などに相談できる。」
保護者：「いじめや不登校の防止・対応をしている。」

16. ①いじめを見たりされたりした場合、先生や家の人などに相談できる。②いじめや不登校の防止・対応をしている。



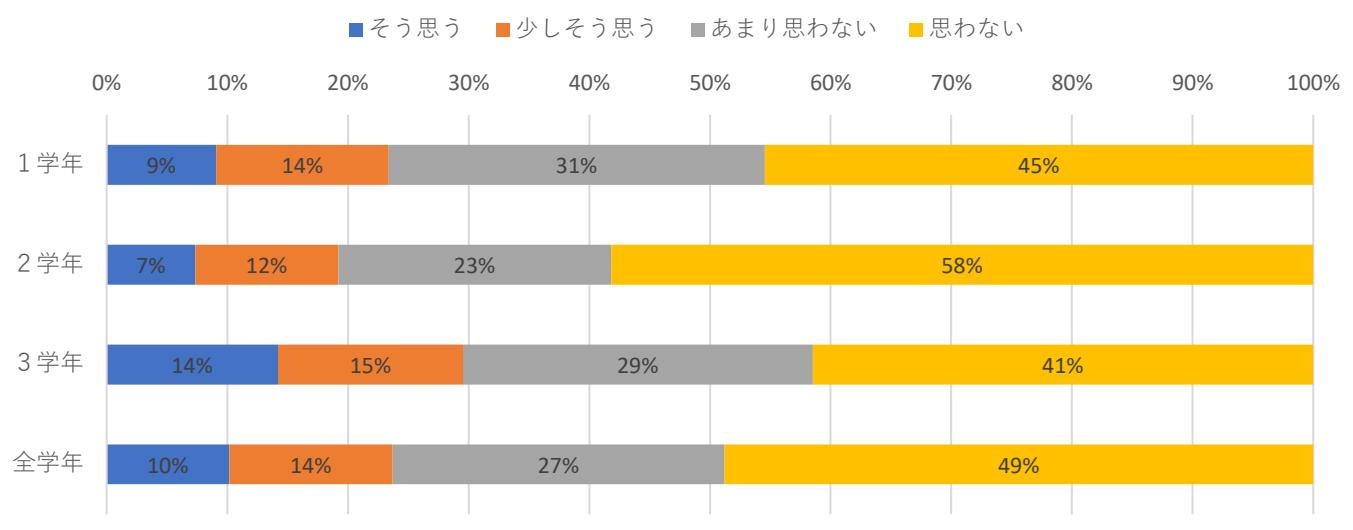
■設問17-1 「友達の言葉等で学校に登校したくないと思うときがある。」

17-1. 友達の言葉等で学校に登校したくないと思うときがある。



■設問17-2 「先生の指導等で学校に登校したくないと思うときがある。」

17-2. 先生の指導等で学校に登校したくないと思うときがある。



設問15 「授業は、生徒が個人や集団で主体的に活動する場面やタブレットの活用等が取り入れられている。」については、生徒・教員ともに約80%が肯定的であるのに対し、保護者は約57%にとどまりました。昨年度よりの全体的に減少しました。

授業、クラス活動において、主体的に取り組む活動やオンラインを活用した取組は広く行われるようになっており、chromebookの使用頻度は高くなってきていますが、さらに充実した活用を目指していきます。chromebookについては、学校内の使用だけでなく、生徒が学習用に自宅に持ち帰り、自主学習としてオンラインドリル（ミライシード）等を使用することも可能です。

設問16 「いじめを見たりされたりした場合、先生や家人などに相談できる。」について

は、生徒は約87%が肯定的な意見となり、昨年度よりも3%増加しています。しかし、13%の生徒は、否定的であることから、「相談ができない」「相談がしにくい」という生徒を一人でも減らすために、教育相談や普段の声掛けなどをしながら、相談しやすい環境をつくりつていけるように取り組んでいきます。

学校では、日頃からいじめのない学校を構築するため、「予防」「対応」「相談」「連携」「組織」「啓発」に努めています。いじめについては、教職員や保護者の目の届きにくいところで発生することがあることから、日常の学校生活での観察だけでなく、学級担任を始め相談しやすい教職員へ相談でき、毎日の生活ノート、年3回のいじめアンケート調査等から予見及び早期発見に努めています。また、外部の相談機関も周知しています。いじめが予見されたり、発生した場合には、事情確認等を実施し、早期解決に努めています。相変わらずインターネットを通じて、人間関係のトラブルが増加していることから、生徒には学級指導を行い、外部講師を学校に招き、生徒対象・保護者対象の情報モラル教育をそれぞれ実施いたしました。

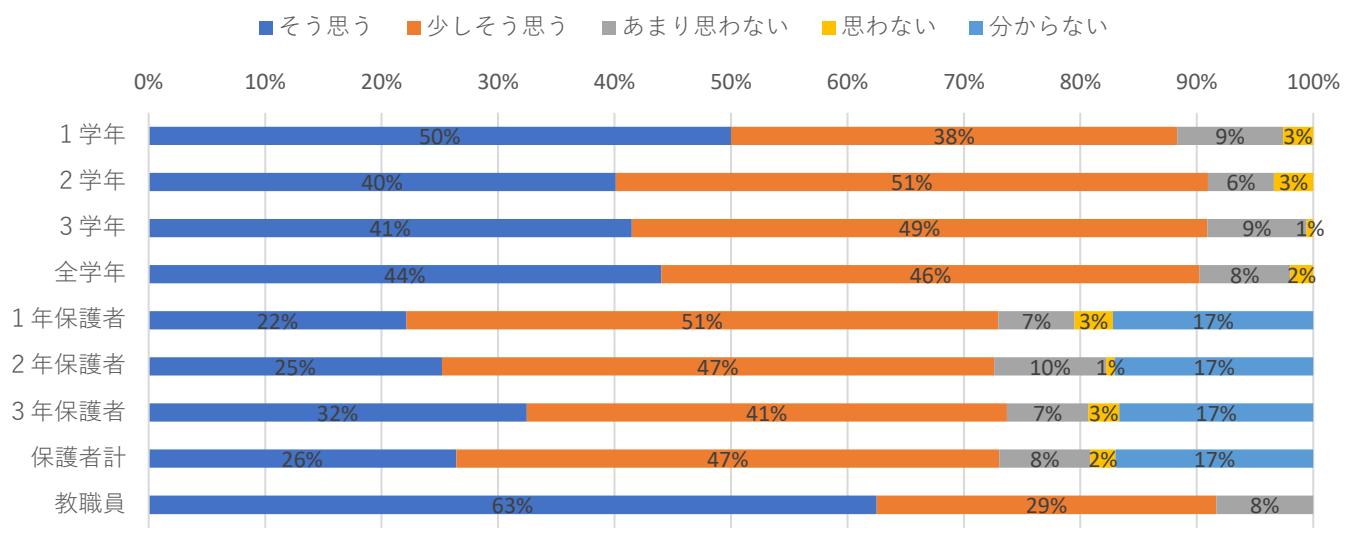
設問17-1 「友達の言葉等で学校に登校したくないと思うときがある。」については、約27%の生徒が登校したくないことがあると回答しています。友人関係のトラブルについては、未然防止とともに、日頃から生徒とのコミュニケーションを大切にするとともに、教育相談やアンケートを実施し、早期発見、早期解決に努めます。

設問17-2 「先生の指導等で学校に登校したくないと思うときがある。」については、約24%の生徒が教員の指導等により登校したくないことがあると回答しています。教員の指導が不適切と考えられ、生徒にストレスを与えるケースがあったことから、教職員の意識改革を行っております。また、学校生活の中で教員の言動に対し、生徒がストレスに感じていると申し出があったケースについては、直接管理職が生徒や保護者から話を聞き、改善を行う機会を設けています。

(18) 安心・安全を守る。

■設問18 「学校は、学習や体験活動等により、生徒の学校生活の安心・安全を守ることに努めている。」

18. 学校は、学習や体験活動等により、生徒の学校生活の安心・安全を守ることに努めている。

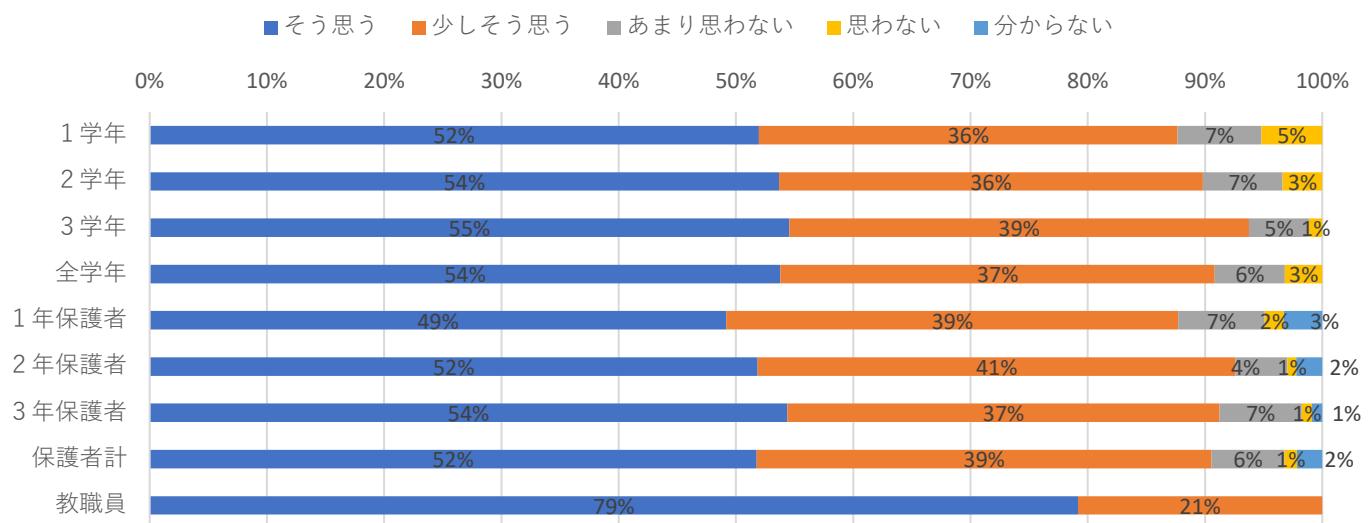


安全教育・防災教育については自分の命を自分で守る力の育成、人権尊重の観点からは自己有用感を感じることができる集団づくりを目指しています。本校では、インターネット上の人間関係のトラブルや心無い一言でトラブルになる事案が頻発していることから、様々な具体的な事例をもとにした一斉指導や学級指導・個別指導などを行っております。

(19) 開かれた学校づくり

■設問19 「学校は、授業参観、学校行事等で保護者が生徒の学校生活の様子を直接見る機会を確保したり、メールや学校・学年・学校だより等で情報を発信して、学校生活の様子を伝えている。」

19. 学校は、授業参観、学校行事等で保護者が生徒の学校生活の様子を直接見る機会を確保したり、メールや学校・学年・学校だより等で情報を発信して、学校生活の様子を伝えている。



生徒、保護者、教員すべてが91%以上の評価を得ています。今年度は、年度初めに「学校公開期間」を設定したため、「仕事の休みが取りやすく、参観できた。」「見たい教科の授業参観ができた。」との意見をいただきました。また、「sigfy」が導入されたため家庭へお知らせが保護者のもとへ届きやすくなったようです。進路関係のお知らせも「sigfy」で配信してほしいとの要望ありましたので、改善していきます。